

沖縄市社協強化・発展計画 ～MASプラン～

第3次基本計画

ダイジェスト版



MASプラン

「MAS」とは、Multiple(マルチプル) and Aggressive(アグレッシブ) Service(サービス)の頭文字です。「いろいろな角度から積極的に福祉サービスを推進していくための計画」を意味しています。

本市には、戦後みよりの無い子どもたちの命と暮らしを守り、市民から「福祉の母」と呼び親しまれた島マス(1900～1988)さんがいました。沖縄市社協では、彼女の行動哲学、福祉理念を継承することをめざして、1992年に沖縄市社協強化発展計画(=MASプラン)第1次基本計画を策定し、実践してきたところです。

■計画策定の背景と意義■

(1) 背景

近年、わが国の生活環境は、核家族化による扶養意識の変容、あるいは近隣の相互扶助機能の低下などにより、「無縁社会化」していると言われています。加えて、少子・高齢化の進行や障がい者の自立と社会参加の課題等をはじめ、引きこもりや孤独死、虐待、DV、自然災害等による要支援者への対応など、いわゆる「社会的孤立」により派生した問題などを絡め、実に複雑・多様化しています。

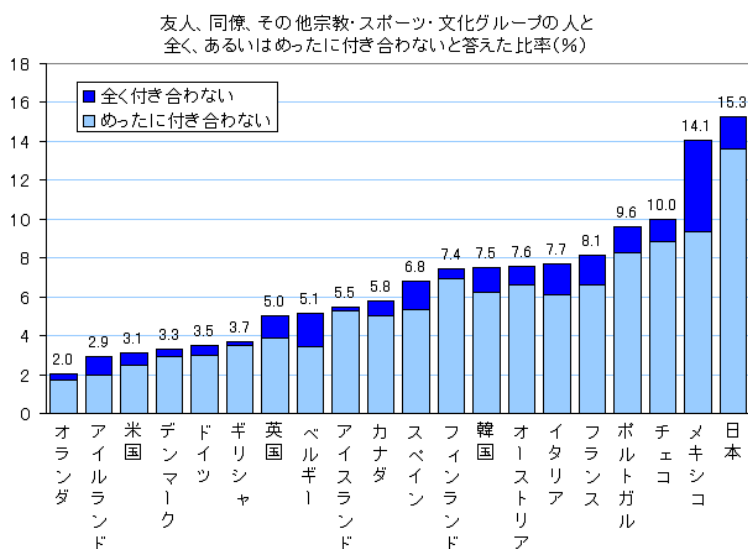
さらには、ICT（情報コミュニケーション技術）の進歩により、産業経済をはじめ、福祉・教育・文化等あらゆる分野、また、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）によるコミュニケーションツールの進化は飛躍的なグローバル化をもたらすと共に、「格差」の拡大・固定化や、「ネットコミュニティ」を反映して、定職に就かない「ニート」や「フリーター」の増加、それらを活用できない「ネット難民」の出現など、新たな課題も生じさせています。とりわけ、「こどもの貧困」問題によりクローズアップされてきた生活困窮者の課題はますます深刻さを増し、大きな社会問題となっています。

国においては、「生活困窮者自立支援制度」の実施や「地域包括ケアの推進」、「介護保険制度」の見直しなど、さまざまな対応策を講じてきているところですが、これらの課題は、重層かつ複合的な要因を背景としていることもあり、これまで以上に制度の枠組みを超えた総合的な支援体制の構築が必要とされてきています。

また、一部の社会福祉法人による多額の内部留保の問題や経営者の不適切な姿勢などが、マスコミにおいて取り上げられるなか、社会福祉法人改革の議論が occurred しました。

このような状況下にあつて、国は、「社会福祉法等の一部を改正する法律（平成 28 年法律第 21 号。以下「改正法」）を平成 29 年 4 月 1 日に施行し、社会福祉法人改革をしております。改正法では、「組織運営のガバナンスの強化」や「事業運営の透明性の向上」、「財務規律の強化」など、理事や評議員、監事などが相互にけん制する機能を強化することや、いわゆる「内部留保」の明確化などを強く求めてきています。

社会的孤立の状況(OECD諸国の比較)



(注) 原資料は世界価値観調査1999-2002。英国はグレートブリテンのみ。

(資料) Society at a Glance: OECD Social Indicators - 2005 Edition

(2) 意義

沖縄市社会福祉協議会（以下「社協」）では、平成26年度より「沖縄市地域見守りネットワーク事業」として、福祉の専門機関・団体をはじめ、広く民間事業所等と連携・協働し、地域で支援が必要な方々に対しての見守り支援活動を展開しています。

他にも、「笑顔宅配サービス事業」や「高齢者居住サポート事業」、「フードバンクひとり一品運動」、「こどもの未来応援事業」、「『子育て・親育ち』サポート事業」など、社協の自主財源を活用した単独事業を先駆的・積極的に取り組んできたところです。

また、行政等からの受託事業も県内では先駆けての取り組みとなり、「日常生活自立支援事業」や「法人後見受任事業」、「市民後見推進事業」など、判断力の低下した高齢者や障がい者の権利擁護に関する事業は、パイオニア的役割を担ってきました。

一方において、本会自主財源の柱となる会費や共同募金収入は、自治会加入者の低下等に伴い、著しく減少してきています。財源問題は、さまざまな事業に影響を与えました。例えば、平成26年度に「ふくふく童話大賞」、27年度に「福祉バス運行事業」が廃止、そして今般「島マス記念塾事業」が23年間の歴史に幕を閉じることになりました。

このような状況も踏まえ、社協の組織・財政・事業等のあり方を今一度細かく分析し、今日的な課題に対応するとともに、持続可能な社協の経営に展望を拓くために、向こう5カ年間の「社協強化発展計画（MASプラン）第3次基本計画」を策定することとしました。

この計画では、沖縄市社協の理念を再構築し、その将来像を描くとともに「社協の福祉力」を培い、ひいては「地域の福祉力」を高めることをめざしていきます。



■沖縄市社協の強化・発展計画(MASプラン)■

(1) 沖縄市社協の理念

「チムグリサン」の風土づくり

今日、社会福祉を取り巻く状況は、ますます複雑・多様化し、これまで社協が担ってきた事業や課題解決へのシステムだけでは、それらの問題等に対応しきれない状況にあります。

一人が抱える問題の複雑性と多様性に対応するためには、フォーマル、インフォーマルな総合的かつ包括的なサービスが必要であるとともに、各専門分野における連携とネットワークが不可欠となり、そのコーディネーターを担う存在がより重要になってきます。

このような状況に積極的に対応することは当然のこととして、沖縄市社協は、自らがこれまで歩んできた歴史を踏まえ、その風土を財産として、時代に対応し、かつ未来に向かって色あせない確固たる理念の下に社協のめざす姿を示すことを宿願としてきました。

沖縄市社協は、「福祉の母」と言われる島マスの福祉理念を実践するために平成5年に「島マス記念塾」を創設し、23年にわたってその運営に力を入れてきました。「チムグリサンの精神」は島マスの福祉実践を支えた源泉であり、徹底した現場主義や地域の人々を動かし、組織化していく原動力となりました。それは、制度や組織、システムが人を救うのではなく、人が人を助け、救うという極めて原初的で素朴な福祉理念です。

従って、社協のめざす姿は、社会福祉の全能的解決者ではなく、弱い人や困っている人をほうっておかない、あるいはほうっておけない、という極めて素朴な心情を私たちの中にもう一度取り戻し、そのような行為を人々は喜びとし、幸福を感じる地域福祉社会を創ることではないでしょうか。

いわゆる、「チムグリサン」*の社会化です。

このことから、沖縄市社協では「チムグリサンの風土づくり」に邁進することをめざし、これを沖縄市社協の理念とします。



「チムグリサン」*の意味

「チムグリサン」は「肝苦りさん」と書きます。「肝」は沖縄の方言(シマクトゥバ)で「心」を表しています。

島マスは人と人との絆や地域社会の繋がりの大切さから、次のように心情を述べています。

「沖縄の方言でいう「チムグリサン(心が痛む)」ということばに、私は感動します。上から恵むのではなく、自分も腹をすかしていながら、少ない食事のなかから分けてやらなければ「自分の心が痛む」という、沖縄の民衆の心のありように感動するのです。私は、この心を、たいせつに受けつぎ発展させたいと願っています。」
(引用:「島マスのがんばり人生」より)

(2) 沖縄市社協の活動方針

《活動を推進する六つの福祉力》



《活動を支えるスローガン》

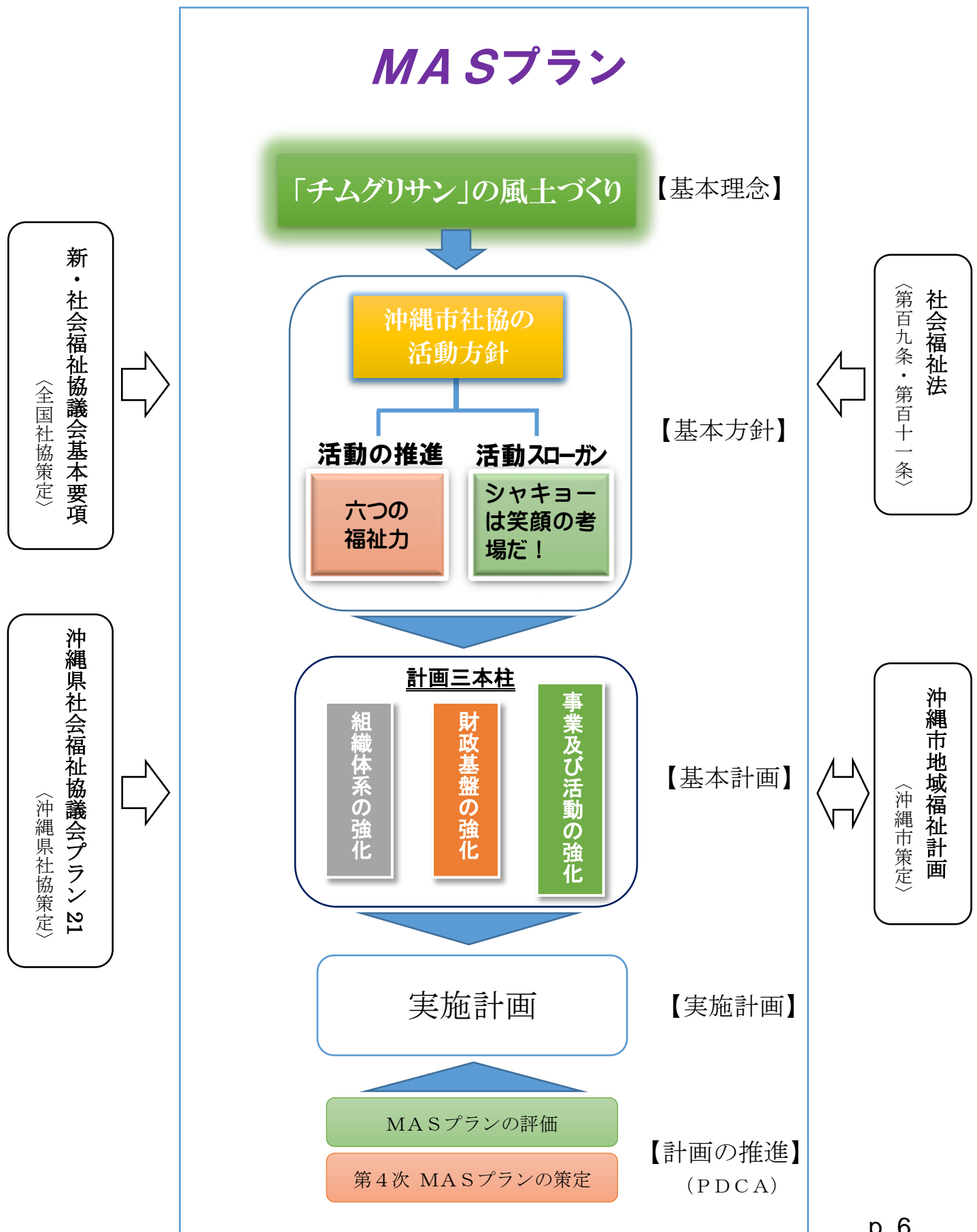
「シャキョーは笑顔の考場だ！」
こうじょう



沖縄市社協ホームページのデザイン <http://www.okicityshakyo.com/>

(3) 社協の活動の原則 (省略)

■計画の体系図■



■第3次基本計画 三つの柱■

一の柱：組織体系の強化

1. ガバナンスの強化

<目標到達のために…>

- ①地域福祉の中核組織としての自覚と責任ある行動。
- ②理事並びに会長に対するけん制機能の充実。
- ③財務会計に係るチェック体制の充実。
- ④財務諸表の公表体制の充実。
- ⑤適正かつ公正な支出管理の充実。
- ⑥「内部留保」の明確化・透明化。
- ⑦社会福祉事業等への計画的な再投資。

2. 事務局体制の強化

<目標到達のために…>

- ①第3次基本計画の遂行。
- ②行政とのパートナーシップ・連携の強化。
- ③上記に伴う、職員の配置要請。

3. 職員の資質の向上

<目標到達のために…>

- ①事務局内研修の充実・強化。
- ②県内及び県外研修の充実・強化。
- ③職員の資格取得の支援。

二の柱：財政基盤の強化

1. 会員制度の強化

<目標到達のために…>

- ①新たな会員特典を模索、展開。
- ②「自治会加入促進協議会」との連携・強化。
- ③あらゆる媒体による広報戦略の展開。
- ④一般会員加入者の強化。到達目標：11,000世帯
- ⑤賛助会員加入者の強化。到達目標：1,000人
- ⑥特別会員化入者の強化。到達目標：200口

2. 各種収益事業の展開

<目標到達のために…>

- ①社協財政強化委員会（仮称）の設置。

3. 沖縄市共同募金委員会の展開・強化

(1) 赤い羽根共同募金運動

<目標到達のために…>

- ①戸別募金…自治会を通して募金の協力を求める。到達目標：650万円
- ②職域募金…市内の企業や事業所の職員を対象に協力を求める。到達目標：320万円
- ③法人募金…民生委員を奉仕員とし、企業等へ訪問し協力を求める。到達目標：350万円
- ④街頭募金…福祉施設・団体などに依頼し、街頭で呼びかける。到達目標：80万円

- ⑤学童募金…市内の小・中学校へ依頼して呼びかける。到達目標：100万円
- ⑥募金箱…募金箱設置協力店を募り、募金を呼びかける。到達目標：150万円
- ⑦沖縄市共同募金委員会の組織の強化を図る。

(2) 歳末たすけあい運動

<目標到達のために…>

- ①戸別募金…自治会を通して募金の協力を求める。到達目標：300万円
- ②職域募金…市内の企業や事業所の職員を対象に協力を求める。到達目標：40万円
- ③法人募金…市内の企業等へ協力を求める。到達目標：10万円
- ④イベント…歳末チャリティーイベントを開催する。到達目標：5万円

4. 財政調整積立金の強化(予備費、寄付金、財調の「三位一体改革」)

<目標到達のために…>

- ①予備費の適正化をめざす。到達目標：総事業費の4パーセント
- ②寄付金の当初予算額を適正に計上することをめざす。到達目標：費目存置
- ③財政調整積立金の強化を図る。到達目標：1,000万円
- ④コストパフォーマンス管理の徹底。

三の柱: 事業及び活動の強化

1. 社協の特徴と他団体との相違点

社協の基本的性格を明確に理解するためには、他の団体（社会福祉法人など）との役割や活動等の違いを明らかにすることが必要です。

第1の相違点は、社協は特定の福祉問題の解決だけを目的としていないということです。地域には、高齢者問題に取り組んでいる団体や障がい者、児童、生活困窮者などそれぞれの課題に対応した団体は数多くあります。社協はそうした団体とは異なり、地域社会の生活課題で解決しなければならない問題を見出し、解決方法を検討し、地域の参加・協力を得ながら取り組んでいきます。（以下、第9まで省略）

2. 沖縄市社協の事業

本第3次基本計画の特徴的な事業として、「MASプロジェクト（仮称）」を実施し、「島マス記念塾」の理念（塾是・塾訓及び福祉哲学等）をできるだけ計画に位置づけ、具体的な行動計画に反映できるような仕組みを構築します。



紙芝居「基地の街のおかあ先生」より

■計画の推進(評価と次期計画との連動)■

1. MAS プラン第3次基本計画の評価

MASプラン第3次基本計画評価委員会(仮称)を設置し、PDCA サイクル^{*}を意識して、適宜本計画の進捗状況を審らかにしていきます。

※PDCA サイクル=Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)

<目標達成のために…>

- ①MASプラン第3次基本計画評価委員会(仮称)の設置。



2. MAS プラン第4次基本計画の策定

<目標達成のために…>

- ①MASプラン第4次基本計画策定委員会の設置。
- ②上記に伴い、市民アンケートや各種実態調査の実践。

■実施計画(5カ年計画)■

(省略)

